

令和 6 年度の取組内容

差別解消

障害者差別解消法ポスター・ちらしの配布

障害者差別解消法の改正をお知らせするポスター掲示および市内事業者に向けてちらしを作成。同じ内容を佐倉市ホームページにも掲載するとともに、イオンタウンユーカリが丘店西館 1 階に設置するデジタルサイネージにも表示し、市内事業者に向けて障害者差別解消法の改正を周知しました。

※参考：参考資料 1

また、成人式にて、障害者差別解消法の啓発リーフレットを新成人へ配布しました。



佐倉市職員研修

◆新規採用職員研修「障害福祉・障害者差別解消法について」(R6.10.10)

新規採用職員を対象とした研修を実施。市職員が障害を正しく理解し、適切な対応を行えるよう、具体的な事例や当事者の声を紹介するとともに、障害に関する基礎知識や接遇時における配慮のアイデアなどについて紹介しました。

◆職員研修「障害福祉・障害者差別解消法について」(R7.2.25 予定)

障害のあるかたが市役所の窓口などを利用される際に、不安や不快な思いをしないで、主体的に用件を済ませることができるように、職員の対応力の向上を図ることを目的とした研修を実施します。

(講師) 広報課職員、障害福祉課職員

佐倉市障がい者団体等連絡会 黒田 聰氏

市民相談員・心配ごと相談員合同研修会（R6.8.28）

市民相談員（市設置）及び心配ごと相談員（佐倉市社会福祉協議会が設置）に、障害者差別解消法の周知、不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供の具体例を通じて、相談があった際の対応等について周知しました。

志津南部地区民生委員・児童委員協議会 定例会（R6.10.12）

民生委員・児童委員に、障害者差別解消法の周知、不当な差別的取扱いの禁止や合理的配慮の提供の具体例を通じて、相談があった際の対応等について周知しました。

障害者虐待防止 事業者向け研修 （R6.10.21）

施設従事者による障害者虐待に至る要因・プロセスや障害特性・障害福祉サービス種別にあわせた虐待防止策について事業者向け研修を実施しました。

実際に起きた虐待の事例をご紹介いただきながらその背景や防止策、そして万が一、虐待が発生してしまった際の対応についてご説明いただきました。参加者 77名

（講師）

佐久間 水月 弁護士（千葉県障害者総合支援協議会権利擁護専門部会委員）

市民カレッジ第3学年あったか福祉コース「聴覚障害を理解する」（R7.1.17）

市民カレッジにて、聴覚障害のある人と共に、障害についての基礎知識や障害者差別解消法についての研修を行いました。

（講師） 障害福祉課職員

佐倉市ろう者協会 佐藤 近延氏

千葉県中途失聴者・難聴者協会 印旛事務所 伊藤 京子氏

障害者差別解消法に関するアンケート調査の実施（R6.12.26-R7.1.17）

（目的）

事業者が対応を検討する「合理的配慮」について、障害のある方の声をお届けすることで、企業等においてより良い配慮についての検討がなされること

（協力） 佐倉市障がい者団体等連絡会

※参照：資料2、資料3

理解促進

パリ 2024 パラリンピック開催に伴う情報発信

❖ 「こうほう佐倉」への掲載

- ・2024年8/15号 佐倉市在住の選手がパリ2024パラリンピックに出場します
- ・2024年10/15号 パリ2024パラリンピック佐倉市在住選手の活躍
- ・2025年2/15号 市内在住のパラリンピック出場選手が小学校で授業を行いました

8 SAKURA 2024年(令和6年)8月15日

佐倉市在住の選手が

パリ2024パラリンピックに出場します！

佐倉市在住の2人の選手が、今月28日から開催されるパリ2024パラリンピック日本代表に選出されました。障害があっても諦めず競技に打ち込み、パリで世界の頂点に座る2人にインタビューしました！



陸上競技 やり投げ 山崎 晃裕 選手
1995年1月、埼玉県で生まれる。赤城山地区大瀬、小牛田小学校卒業。2013年、佐倉市立第一中学校卒業。2013年から12月にかけて、2021年の東京2020パリ2024パラリンピックでは個人入賞、2023年の成績アシップ競走大会、今年3月の新潟2024パリ2024パラリンピックでは個人入賞。



バスケットボール 松本 卓巳 選手
1994年3月、千葉県で生まれる。2017年10月にはこの会社に就職する。2019年からパラバスケットボールを始めた。2021年の東京2020パラリンピックでは個人入賞、2023年の成績アシップ競走大会、今年3月の新潟2024パリ2024パラリンピックでは個人入賞。

インタビューの全文は、ホームページをご覧ください。
佐倉市公式ウェブサイト

教えてくれた人たちのためにも、笑顔でメダルを狙います
初めて大きな大会に立場するので、少し不安もありますが、笑顔で
戻しめながらメダルを狙います。自分をいたわるといって、ずっと自分
の心を大切にして、自分を大切に育んでいたい。自分たちで作られる「ランチ」に立派な立派な人には、自分たちも頼
っているところを見ています。だから、自分たちも頼
っています。佐倉市も頼り上がると思うので、ぜひ
頼んでください。

❖ イオンタウンユーカリが丘でのパネル展示 「佐倉からパリへ 二人のパラリンピアン」

パリ2024パラリンピック（期間：8月28日～9月8日）に出場した山崎 晃裕 選手、松本 卓巳 選手のインタビューを展示し、お二人への応援を呼びかけました。



❖ 市ホームページでのインタビュー掲載

上記パネル展示の内容を市ホームページに掲載し、市内外へ情報発信を行いました。



❖ 市内小学校での授業実施（人権デリバリー講座・パラバドミントン体験教室）

パリ2024パラリンピックに出場した山崎晃裕選手（陸上競技やり投げ）、松本卓巳選手（バドミントン）が市内小学校で子どもたちに授業



VR体験で理解する発達障害

「パラスポーツと心のフェスティバル」（12月7日）内でVR機器を活用し、発達障害の特性の一つ「聴覚過敏」を多くの方々に体験していただきました。

現在、市ホームページに、体験したかたの感想を掲載しています。



現在の位置 埼玉県桜本市公式ウェブサイト > 組織から探す > 様々な福祉課 > お知らせ > 「VRで理解する発達障害」を実施しました

「VRで理解する発達障害」を実施しました

更新日：2025年01月24日 ページ番号：20012



VR機器を活用して当事者の気持ちを体感

障害者連間に合わせて開催したイベント「パラスポーツと心のフェスティバル」（12月7日）内でVR機器（※）を活用し、発達障害の特性の一つ「聴覚過敏」を多くの方に体験していただきました。

体験では、発達障害の特性を総合的に体験することで、異常だけではなく「障害についての理解を深めるとともに、当事者が希望する配慮を具体的に考えていただきました。

東京2025デフリンピックに向けた情報発信

◆長内智さんインタビュー

来年日本で開催される東京2025デフリンピックを目指されている長内智選手（陸上競技）に大会への意気込みなどを取材し、ホームページに掲載しました。

長内 智 選手 デフ陸上競技/株式会社MAGICA Lab.

Profile



2025年11月 初めて日本で開催されるデフリンピック



デフリンピックとは、「ディフェンシブリミング」のことです。ディフェンシブは英語で「防衛」の意味で、リミングは「制限」の意味です。アスリートの中には「障害者」ではなく「身体能力制限のあるアスリート」と表現されています。2025年11月、日本で初めて開催されるデフリンピックは、世界最大級の大会として、日本を代表するアスリートたちが競技場で競争していく予定です。

デフリンピックとは、「ディフェンシブルリミング」のことです。ディフェンシブルは英語で「防衛」の意味で、リミングは「制限」の意味です。アスリートの中には「障害者」ではなく「身体能力制限のあるアスリート」と表現されています。2025年11月、日本で初めて開催されるデフリンピックは、世界最大級の大会として、日本を代表するアスリートたちが競技場で競争していく予定です。

東京2025デフリンピックは、例年通りの大会ではありません。日本では初めての開催になります。（2024年11月15日～2025年11月15日）日本で初めての大会となるため、多くのアスリートが参戦する予定です。

「デフリンピック」は、日本で初めての大会となるため、多くのアスリートが参戦する予定です。

「デフリンピック」は、日本で初めての大会となるため、多くのアスリートが参戦する予定です。

「デフリンピック」は、日本で初めての大会となるため、多くのアスリートが参戦する予定です。

■東京2025デフリンピックについて

デフリンピックは国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催する、デファスリートを対象とした国際大会で日本では初めての開催になります。

（2025年11月15日～26日）

障害のあるアーティストをホームページで紹介 さくら きらめき アートギャラリー



市内で活動されている障害のあるアーティストの方々の作品やインタビューを市のホームページに掲載します。作品への思いや制作風景、ご家族のお話などをウェブ上で紹介することで、市内外に作品の魅力を広く発信するとともに、障害理解の促進を図ります。◆谷村虎之介さんインタビュー（3月公開）

市内小中学校への福祉教育の取り組みアンケート

市内的小中学校において、現在実施されている福祉教育の取組やその課題を調査しました。

来年度以降、市が推進する福祉教育（障害福祉分野）の方針（目的・対象・内容など）の検討材料としたいと考えています。

〈回答から〉

[回答数 小学校 23 校、中学校 11 校 計 34 校 調査期間 1月 10 日～20 日]

◆福祉教育の取組について

[体験]…視覚、聴覚、肢体不自由など障害の疑似体験やパラスポーツを体験

[聴講]…パラリンピック出場選手など当事者の講演

[調査]…調べ学習や校外学習など

◆課題について

・実施時間の確保（他分野との兼ね合い） ・テーマや講師の選定

◆期待する市の支援について

・福祉教育のプログラム化（講師派遣など） ・実施状況の情報共有